

新型コロナウイルス感染症対策への取り組み

奥能登国際芸術祭 2020+を実施するにあたり、実行委員会では関係するすべての皆さまが安全に芸術祭を楽しんでいただけるよう、珠洲市総合病院や健康増進センターなどの関係機関と協力し、感染症対策の6つの取り組みを行います。

○新型コロナウイルス感染症対策の6つの取り組み

1 来場されるお客さまへのお願い

お客さまに対する検温体制を構築し、検温への協力を周知徹底します。また、フィジカルディスタンスの確保、マスク着用、手指消毒、来場時の体調管理といった基本的な感染症対策への協力をウェブサイトや公式 SNS、各会場などで周知します。

2 芸術祭関連施設の感染症対策

特に屋内に作品が展示される会場においては、換気を徹底するために必要な措置を講じ、状況に応じて人数制限を行うなど三密の回避を徹底します。加えて、デジタルパスポートなどの非接触システムの導入や感染リスクが高い箇所の消毒などの接触感染防止のルールづくりに努め、休館日を設定し感染症対策の実施状況の確認を行います。

3 スタッフ、関係者の感染症対策

芸術祭に関わるアーティストやスタッフ、サポーターが PCR 検査または抗原検査を受診できる環境をつくれます。また、検温をはじめとした体調管理を実施・記録するとともに、作業現場や宿舎などでの感染症拡大防止を徹底します。

4 イベントやツアーバスなどにおける感染症対策

来場者同士または来場者とスタッフの感染リスクを軽減できるように、定員の設定や検温体制の構築、飛沫の拡散防止策などを講じます。

5 地域における感染症対策

宿泊施設や飲食店をはじめとした事業者に対して各施設におけるコロナ対策の徹底を呼び掛け、芸術祭に関する必要な情報を提供します。さらに、珠洲市としてワクチン接種を推進し、地元住民が芸術祭に参加しやすい環境をつくれます。

6 体調不良者や新型コロナウイルスの陽性者発生時の対応

珠洲市総合病院や健康増進センター、その他関係機関と協力し、万が一の場合でも、必要な措置を早急に講じられる体制をつくれます。